

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

シクロヘキシルアミンサリチル酸塩 (サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム)

改訂日: 2023/07/31



安全データシート (SDS)

1. 化学品及び会社情報

昭和化学株式会社
東京都中央区日本橋本町4-3-8
担当

TEL(03)3270-2701
FAX(03)3270-2720
緊急連絡 同上
改訂日 2023/07/31
SDS整理番号 03515350

製品等のコード : 0351-5350、0351-5330、0351-5380

製品等の名称 : シクロヘキシルアミンサリチル酸塩

推奨用途 : 試薬

参考: その他の用途(当該製品規格に限定されない一般的な用途。規格により用途は相違。)
有機合成原料、合成中間体、医薬・医薬中間体、はんだフラックス など

使用上の制限 : 推奨用途以外の用途へ使用する場合は化学物質専門家等の判断を仰ぐこと



2. 危険有害性の要約

GHS分類

物理化学的危険性
可燃性固体 : 区分に該当しない
自然発火性固体 : 区分に該当しない
自己発熱性化学品 : 区分に該当しない
水反応可燃性化学品 : 区分に該当しない

健康に対する有害性
急性毒性(経口) : 区分4
皮膚腐食性/刺激性 : 区分2
眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 : 区分2A

注意喚起語: 警告

危険有害性情報

飲み込むと有害(経口)
皮膚刺激
強い眼刺激

注意書き

【安全対策】

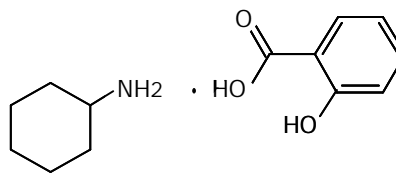
取扱い後はよく手を洗うこと。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
保護手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面を着用すること。

【応急措置】

飲み込んだ場合: 口をすすぐこと。気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合: 多量の水と石鹸で洗うこと。
眼に入った場合: 水で15分以上注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
気分が悪い時は医師に連絡すること。
皮膚刺激が生じた場合: 医師の診察、手当を受けること。
眼の刺激が続く場合: 医師の診察、手当を受けること。
汚染された衣類を脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。

【保管】

湿気、日光を遮断し、冷暗所に保管すること。



アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

シクロヘキシルアミンサリチル酸塩（サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム）

改訂日：2023/07/31

吸湿性があるので、使用後は速やかに密封して保管すること。
開封後は速やかに使用すること。

【廃棄】

内容物や容器を、都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

（注）物理化学的危険性、健康に対する有害性、環境に対する有害性に関し、上記以外の項目は、現時点で「区分に該当しない(分類対象外も該当)」又は「分類できない」である。

3. 組成及び成分情報

化学物質・混合物の区別	:	化学物質
化学名	:	シクロヘキシルアミンサリチル酸塩 (別名) サリチル酸シクロヘキシルアミン、 シクロヘキサン-1-アミンサリチル酸塩、 サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム、 アミノシクロヘキサンサリチル酸塩 (英名) Cyclohexylamine salicylate、 Salicylic acid cyclohexylamine salt、 Cyclohexan-1-amine salicylate、 Cyclohexylammonium salicylate、 Aminocyclohexane salicylate
成分及び含有量	:	シクロヘキシルアミンサリチル酸塩、 95.0%以上(乾燥後)
化学式及び構造式	:	C ₆ H ₁₁ NH ₂ ・C ₇ H ₆ O ₃ 、 C ₆ H ₁₃ N・C ₇ H ₆ O ₃ 、 C ₁₃ H ₁₉ N ₃ 、 構造式は上図参照(1ページ目)。
分子量	:	237.31
官報公示整理番号	化審法	(3)-2258「シクロヘキシルアミン」、 (3)-1640「サリチル酸」
	安衛法	本品はシクロヘキシルアミンの付加塩またはオニウム塩であり、 新規化学物質として取り扱わない物質である(既存化学物質扱い)。 公表化学物質(化審法番号を準用)
CAS No.	:	未登録。 シクロヘキシルアミン：108-91-8 サリチル酸：69-72-7
危険有害成分	:	シクロヘキシルアミンサリチル酸塩

4. 応急措置

吸入した場合	:	呼吸が困難になった時は、新鮮な空気のある場所へ移動し、呼吸しやすい姿勢で休息させる。 気分が悪い時は、医師の診断、治療を受ける。
皮膚に付着した場合	:	直ちに皮膚を多量の水と石鹸で洗う。 皮膚刺激などが生じた時は、医師の手当を受ける。 汚染された衣類を脱ぎ、再使用する前に洗濯する。
目に入った場合	:	直ちに水で15分以上注意深く洗う。その際、顔を横に向けてからゆっくり水を流す。水道の場合、弱い流れの水で洗う。勢いの強い水で洗浄すると、かえって目に障害を起すことがあるので注意する。 まぶたを親指と人さし指で広げ眼を全方向に動かし、眼球、まぶたの隅々まで水がよく行き渡るように洗浄する。 次に、コンタクトレンズを着用して容易に外せる場合は外す。 その後も洗浄を続ける。 目の刺激が持続する時は、医師の診断、治療を受ける。
飲み込んだ場合	:	直ちに水で口をすすぎ、うがいをする。 コップ数杯の水を飲ませ、指を喉に差し込んで吐かせる。 必要に応じて医師に連絡する。 気分が悪い時は、医師の診察、手当を受ける。
予想される急性症状及び遅発性症状	:	情報なし

参考【シクロヘキシルアミン〔CAS No.108-91-8〕の情報】

吸入	:	灼熱感、咳、息苦しさ、吐き気、嘔吐
皮膚に付着	:	発赤、痛み、皮膚熱傷
眼に付着	:	発赤、痛み、重度の熱傷
経口摂取	:	めまい、胃痙攣、灼熱感、嘔吐、腹痛、ショック/虚脱、吐き気

5. 火災時の措置

適切な消火剤	:	本製品は可燃性である。 散水、噴霧水、泡消火剤、二酸化炭素、粉末消火剤、乾燥砂など 大火災の場合、空気を遮断できる泡消火剤が有効である。
使ってはならない消火剤	:	棒状放水(本品があふれ出し、火災を拡大するおそれがある。)
特有の危険有害性	:	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。 消火水は環境汚染を引き起こすおそれがある。
特有の消火方法	:	火災発生場所の周辺に関係者以外の立入りを禁止する

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

シクロヘキシルアミンサリチル酸塩（サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム）

改訂日：2023/07/31

安全に対処できるならば着火源を除去すること。
危険でなければ火災区域から容器を移動する。
風上より消火し、環境へ流出しないよう漏洩防止処置を施す。
消火を行う者の保護：消火作業の際は、適切な空気呼吸器を含め適切な防護服（耐熱性）を着用する。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項、保護具及び緊急時措置：
漏洩区域は、関係者以外の立入りを禁止する。
漏洩エリア内に立入る時は、保護具を着用する。
眼、皮膚への接触や吸入を避ける。
風上から作業し、粉じん、蒸気、ガスなどを吸入しない。
粉じんが飛散する場合は、水噴霧し飛散を抑える。
密閉された場所に立入る時は、事前に換気する。
風上に留まる。
低地から離れる。

環境に対する注意事項：河川、下水道、土壤に排出されないように注意する。
回収、中和：漏洩物を掃き集め、密閉できる空容器に回収する。
漏洩物が飛散する場合は、水を散布し湿らしてから回収する。
回収した漏洩物は、後で産業廃棄物として適正に処分廃棄する。
後処理として、漏洩場所は大量の水を用いて洗い流す。

封じ込め及び浄化の方法・機材：
危険でなければ漏れを止める。
二次災害の防止策：排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
近くに裸火源、発火源があれば、速やかに取除く。
事故の拡大防止を図るため、必要に応じて関係機関に通報する。

7. 取扱いおよび保管上の注意

取扱い
技術的対策：本製品を取扱う場合、必ず保護具を着用する。
粉じん、ミスト、蒸気などの発生を防止する。
粉じんの堆積を防ぐ。

局所排気・全体換気
安全取扱い注意事項：取扱い場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
裸火厳禁。
すべての安全注意を読み理解するまで取扱わない。
容器を転倒させ、落下させ、衝撃を加え、又は引きずるなどの取扱いをしてはならない。
接触、吸入又は飲み込まないこと。
皮膚、粘膜等に触れると、炎症を起こすことがある。
目や口に入ると刺激を受けることがあり、使用の際には十分気を付ける。
この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしない。
取扱い後はよく手を洗う。

接触回避：炎、火花、湿気、水または高温体との接触を避ける。

保管
技術的対策：保管場所には換気装置を設置する。
保管場所は、製品が汚染されないよう清潔にする。

混触危険物質
保管条件：強酸化剤（硝酸塩、塩素酸塩、過酸化物、過塩素酸塩など）
高温多湿を避け、乾燥した冷暗所（1～15℃）に保管する。
光のばく露により変質するおそれがあるため、遮光した容器を使用するか日光、室内光を避け、暗所に保管する。
吸湿性があるので、使用後は十分に空気を抜き、密封して保管する。
開封後は速やかに使用する。

容器包装材料：品質管理上、夏季気温が上昇して吸湿がすすむと品質劣化し、種々の問題が発生する場合がありますので、保管には十分な配慮が必要である。
ポリエチレン、ポリプロピレン、ガラスなど

<参考> 室温での容器包装材料の耐薬品性（あくまでも目安、保証不可、実用試験確認必要）

【注】本品のデータなし。
参考に、有機アミン塩のアニン塩酸塩〔CAS No.142-04-1〕のデータを示す。

【 ○：良好 △：やや良好(条件による) ×：やや不良 ✕：不良 -：データなし 】

スチレンゴム クロロプレンゴム(ネオプレン)× ニトリルゴム ブチルゴム
天然ゴム シリコンゴム・ フッ素ゴム(パイトン、ダイエル) テフロン
軟鋼 ステンレス(SUS304 SUS316) チタン アルミニウム 銅
軟質塩ビ 硬質塩ビ ポリスチレン ABS ポリエチレン ポリプロピレン
ナイロン アセタール樹脂・ アクリル樹脂 ポリカーボネート ガラス

8. 暴露防止及び保護措置

管理濃度	： 設定されていない。
許容濃度（ばく露限界値、生物学的ばく露指標）：	
日本産衛学会	： 設定されていない。
ACGIH	： 設定されていない。
設備対策	： この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には洗眼器と安全シャワーを設置する。 取扱場所には局所排気又は全体換気装置を設置する。
保護具	
呼吸器の保護具	： 呼吸器保護具（防じんマスク）を着用する。
手の保護具	： 保護手袋（ニトリル製、塩化ビニル製など）を着用する。
眼の保護具	： 眼の保護具（ゴーグル型保護眼鏡）を着用する。
皮膚及び身体の保護具	： 長袖作業衣を着用する。 必要に応じて顔面用の保護具、長靴を着用する。
衛生対策	： 取扱い後はよく手を洗う。 取り扱い中は飲食、喫煙はしない。 汚染された作業衣は作業場から出さない。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態	： 結晶又は結晶性粉末
性状	： 白色～類白色
色	： 白色～類白色
臭い	： わずかにアミン臭
pH	： 弱酸性～中性（5wt%水溶液）
融点	： データなし
凝固点	： データなし
沸点	： データなし
引火点	： データなし
可燃性	： 可燃性
爆発範囲	： データなし
蒸気圧	： データなし
相対ガス密度（空気 = 1）	： データなし
密度又は相対密度	： データなし
比重	： データなし
溶解度	： 水に溶ける。
オクタノール/水分配係数	： データなし
発火点	： データなし
分解温度	： データなし
粘度	： データなし
動粘度	： データなし
粒子特性	： データなし

GHS分類

可燃性固体	： 易燃性を有せず、また、摩擦により発火あるいは発火を助長する恐れがなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.1（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
自然発火性固体	： 常温の空気と接触しても自然発火しないことから、区分に該当しないとした。
自己発熱性化学品	： 空気との接触により自己発熱性がなく、さらに、国連危険物輸送勧告（UNRTDG）のクラス4.2（可燃性固体）にも該当しない非危険物であることから、区分に該当しないとした。
水反応可燃性化学品	： 本品は水に溶け、水に対して安定である（水との混触で可燃性ガスの発生がない）と考えられるので、区分に該当しないとした。

10. 安定性及び反応性

安定性（反応性・化学的安定性）

安定性（反応性・化学的安定性）	： 通常の取扱条件において安定である。 吸湿性があるので、使用後は容器を密閉する。 吸湿すると、ブロッキングがおきる（固まりの発生）。 光により変質するので、遮光保管する。 可燃性であるので、火気に注意する。
危険有害反応可能性	： 金属（特に銅及び軽金属類）を腐食することがある。 強酸化剤と混触すると激しく反応することがある。 強アルカリと混触すると反応することがある。 強酸と混触すると反応することがある。
避けるべき条件	： 日光、光、高熱、湿気
混触危険物質	： 強酸化剤、強アルカリ性物質
危険有害な分解生成物	： 燃焼で熱分解すると、窒素酸化物、一酸化炭素、二酸化炭素ガスを

発生する。

11. 有害性情報

- 急性毒性 : 経口 本品はEU-CLP, Annex 1, 2 でリスク分類されていないが、シクロヘキシルアミンは毒性があることから、本品も飲み込むと有害と推測し、区分4とした。
飲み込むと有害(経口)(区分4)
経皮 分類できない。
吸入(蒸気) 分類できない。
吸入(粉じん) 分類できない。
粉じんを吸入すると、のど、気管、鼻の粘膜を刺激することがある。
- 皮膚腐食性/刺激性 : 本品はEU-CLP, Annex 1, 2 でリスク分類されていないが、皮膚刺激があるので、区分2とした。
皮膚刺激(区分2)
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : 本品はEU-CLP, Annex 1, 2 でリスク分類されていないが、強い眼刺激があるので、区分2 Aとした。
強い眼刺激(区分2A)
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 分類できない。
- 生殖細胞変異原性
発がん性 : 知見データがなく、産衛学会やIARC, ACGIH, NTP, EPA, OSHAの国際評価機関の報告がないため、分類できない。
- 生殖毒性
特定標的臓器毒性
(単回ばく露) : 分類できない。
本品はEU-CLP, Annex 1, 2 でリスク分類されていないが、単回ばく露により、呼吸器への刺激が生じることがある。
- 特定標的臓器毒性
(反復ばく露) : 分類できない。
反復ばく露により、不快感、吐き気、咽頭痛、咳、頭痛が現れることがある。
- 誤えん有害性 : 分類できない。

参考1/2【シクロヘキシルアミン〔CAS No.108-91-8〕のデータ】

- 急性毒性 : 経口 ラット LD50 = 156 mg/kg (DFGMAK-Doc. 22 (2006))
飲み込むと有毒(経口)(区分3)
経皮 ウサギ LD50 = 277mg/kg (DFGMAK-Doc. 22 (2006))
皮膚に接触すると有毒(経皮)(区分3)
吸入(蒸気) ラット LC50(7時間) = 7500 mg/m³ (=1850 ppm)
[4時間換算値: 2447 ppm] (PATTY (5th, 2001))
吸入すると有毒(蒸気)(区分3)
吸入(ミスト) 分類できない。
- 皮膚刺激性/刺激性 : ウサギの皮膚に開放適用後24時間以内に、損傷の程度が10段階評価(最大10)での7となり壊死がみられた(DFGMAK-Doc. 22 (2006))との結果、また、ウサギの皮膚に本物質0.5 mLを4または24時間の半閉塞適用により腐食性が認められた(DFGMAK-Doc. 22 (2006))との報告、さらにモルモットの皮膚に本物質原液を24時間の閉塞適用により浮腫、壊死、持続性焼痂がみられ、強い刺激性を示した所見(ACGIH (2001))に基づき区分1とした。なお、pHは11.5 (100 g/L)である。
重篤な皮膚の薬傷・眼の損傷(区分1)
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性 : ウサギの眼に適用して壊死(程度は10段階評価で最も強い10)を引き起こした(DFGMAK-Doc. 22 (2006))との報告、さらに、ウサギの眼に50%溶液を1滴投与により眼の完全な破壊をもたらした(DFGMAK-Doc. 22 (2006))、ウサギの眼に0.1 mLを適用し腐食性が認められた(DFGMAK-Doc. 22 (2006))との報告もあり、区分1とした。
なお、pHは11.5 (100 g/L)である。
重篤な眼の損傷(区分1)
- 呼吸器感作性又は皮膚感作性 : 呼吸器感作性: 分類できない。
皮膚感作性: 分類できない。
モルモットを用い本物質の1%溶液で感作を試みた試験において、感作性は認められなかったとの記述(ACGIH (2001))、また、ポランティアに本物質の25%溶液を背部皮膚に適用し、2週間後に惹起したところ、被験者の13%に感作反応が認められたとの報告(化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008))があるが、いずれも試験法について記載がなく試験結果の詳細も不明であり、データ不足により分類できないとした。
- 生殖細胞変異原性 : マウスに腹腔内投与による優性致死試験(生殖細胞in vivo経世代変異原性試験)の陽性結果(化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008))、およびラットに腹腔内投与による精原細胞を用いた染色体異常

- 試験（生殖細胞in vivo変異原性試験）の陽性結果（化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008)）が得られていることから、区分1Bとした。なお、以上の試験とは別に、優性致死試験ではマウスの腹腔内投与およびラットの経口投与による試験の陰性結果（化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008)）、精原細胞を用いた染色体異常試験ではマウスおよびチャイニーズハムスターの腹腔内投与による陰性結果（化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008)）も報告されている。また、体細胞（骨髄）を用いたin vivo染色体異常試験でも陰性および陽性の両方の報告がある。in vitro試験ではエームス試験は陰性であるが培養細胞を用いた染色体異常試験では陰性または陽性の結果が共に報告されている（化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008)、NTP DB (1982)）。
- 発がん性 : 遺伝性疾患のおそれ（区分1B）
区分に該当しない。
ACGIHの発がん性評価でA4（ヒトに対する発がん性と分類しかねる物質）に分類されている。
- 生殖毒性 : 生殖毒性の発現に関して、ラットに経口投与した一世代生殖試験において3回の交配の初回に雄の受胎能の低下（DFGMAK-Doc 22 (2006)）、マウスに混餌投与した四世代生殖試験において生後死亡率の増加（DFGMAK-Doc 22 (2006)）、妊娠マウスの妊娠6～11日目に経口投与した発生毒性試験において胎仔死亡の増加（化学物質の初期リスク評価書 Ver. 1.0, 135 (2008)）、妊娠マウスの妊娠11日目に腹腔内投与した発生毒性試験において吸収胚の増加（DFGMAK-Doc 22 (2006)）がそれぞれ報告されているが、いずれも親動物の一般毒性の記載がないため、区分2とした。
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露） : 作業環境中の事故により本物質の蒸気にはく露された3人の労働者のうち1人は約1時間のばく露で情緒不安、心悸亢進、不眠を訴え、2人目は強いアルカリ溶液と共に本物質が顔にはねかかき、嘔気、繰り返しの嘔吐、支離滅裂な話し方、散瞳が認められたが、3人目は嘔気のみであった（DFGMAK-Doc. 22 (2006)）。本物質は神経毒と考えられており、中枢神経系の抑制を起こすとの記載（PATTY (5th, 2001)）、また、脊髄の運動神経中枢および髄質に作用し、投与後数時間で遅発性の痙攣をもたらすとの記載（JECFA 202 (1970)）もあることから、区分1（神経系）とした。
一方、健康男子ボランティアに5または10 mg/kgを単回経口投与後1時間で、収縮期と拡張期の平均血圧が用量依存的に有意な増加を示し、この血管収縮作用は心拍数の僅かな減少も伴った（DFGMAK-Doc. 22 (2006)）と報告されていること、本物質の作用として交感神経のみならず、心血管にも言及がある（DFGMAK-Doc. 22 (2006)）ことから、区分1（心血管系）とした。
さらに、本物質の主な急性影響には気道刺激性が含まれている（ACGIH (2001)）ことから、区分3（気道刺激性）とした。
神経系、心血管系の障害（区分1）
呼吸器への刺激のおそれ（区分3）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露） : 分類できない。
ラットおよびマウスに13週間混餌投与による複数の試験（ラットとマウス各2件）において、ガイダンス値範囲内の用量では体重増加抑制と摂餌量の減少が観察されているのみで、投与による悪影響はラットの場合にガイダンス値上限を超えた用量で認められた精巣萎縮、輸精管の変性、セルトリ細胞の空胞化などの精巣の所見（DFGMAK-Doc. 22 (2006)）であることから、経口経路では区分に該当しないと判断される。
一方、ラットに700 mg/m³を2カ月間吸入ばく露により、ヘモグロビンと赤血球数の低下、網状赤血球の増加が記録され、剖検で甲状腺の扁平上皮で覆われた濾胞形成に加え、肝臓、脾臓および肺のヘモジデリン沈着が見出されたと報告されている（DFGMAK-Doc. 22 (2006)）が、この試験では得られた結果が他の試験で再現出来なかったため、評価に有用ではないと記述されている（DFGMAK-Doc. 22 (2006)）ことから、分類に使用しなかった。
以上より、他の経路の場合、吸入はデータ不足で経皮はデータがないため特定標的臓器毒性（反復ばく露）の分類としては、分類できないとした。
- 誤えん有害性 : 分類できない。
- 参考2/2【サリチル酸〔69-72-7〕の情報】
- 急性毒性 : 経口 ラットのLD50値として5件のデータ（1500-2000 mg/kg（JECFA WHO 228 (1962)）、1100 mg/kg（JECFA 7742 (2002)）、891 mg/kg、1580 mg/kg、1280 mg/kg（NTP TR524 (2007)））から、区分4とした。
飲み込むと有害（経口）（区分4）

- 経皮 区分に該当しない。
 ラットのLD50は>2000 mg/kgで死亡例なしとの報告（NTP TR524（2007））に基づき、区分に該当しないとされた。
- 吸入（蒸気） 分類できない。
 吸入（粉じん） 分類できない。
 ラットのLC50値は粉塵ばく露で >0.9 mg/L/1h（>0.225 mg/L/4h）（IUCLID（2000））と報告されているが、区分を特定できないので分類できないとした。
- 皮膚刺激性/刺激性：ヒトに0.2%または1.5%のサリチル酸溶液を21日間の閉塞または半閉塞貼付した試験では、本物質は非刺激性（nonirritating）と結論され（NTP TR524（2007））、また、ウサギを用いた試験で刺激性スコアは0.16/8.0で軽度の刺激性（slightly irritating）と報告されている（IUCLID（2000））が、ヒトのボランティアによる試験で刺激性あり（irritating）との結果（IUCLID（2000））、13人の患者でサリチル酸塩使用と関連する中毒性の表皮壊死発生の報告（PIM 642（1998）、List1相当）、さらにサリチル酸は高濃度（20%以上）で焼灼作用があるとの記載（IUCLID（2000））により、区分2とした。
 皮膚刺激（区分2）
- 眼に対する重篤な損傷/刺激性：ウサギの眼に3%溶液を滴下し、強い刺激性（highly irritating）との結果（IUCLID（2000））に基づき、区分2Aとした。
 強い眼刺激（区分2A）
- 呼吸器感作性：分類できない。
 なお、喘息のヒトは特にサリチル酸塩に対し著しい感受性を示し、蕁麻疹、発疹、血管性神経症、鼻炎、および重度で時に致死性とも言える発作性気管支痙攣、呼吸困難、ショック、失神など、種々の反応を引き起こす（PIM 642（1998））と述べられている。
- 皮膚感作性：マウスのLLNA法による皮膚感作性試験で陽性（positive）の報告（NTP TR524（2007））に基づき、区分1とした。なお、本物質は局所使用でアレルギー性接触皮膚炎を起こすおそれがあるとの記述（PIM 642（1998））の一方、マウス耳介腫脹試験では感作性なし（not sensitizing）との報告（IUCLID（2000））もある。
 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（区分1）
- 生殖細胞変異原性：区分に該当しない。
 マウスに腹腔内または経口投与による染色体異常試験（in vivo 変異原性試験）で、両経路とも染色体異常の有意な増加は見られず陰性（HSDB（2009））であった。
 また、マウスの経口投与による精巢DNAへのトリチウムチミジン取り込み試験（生殖細胞in vivo変異原性試験）では、トリチウムチミジン取り込みが有意に減少した（HSDB（2009））と報告されている。
- 発がん性：分類できない。
 知見データがなく、産衛学会やIARC、ACGIH、NTP、EPA、OHSАの国際評価機関の報告がないため、分類できないとした。
- 生殖毒性：ラットの妊娠20および21日目に経口投与（10 mg/kg）により、分娩開始時間の有意な促進（HSDB（2009））、ラットの妊娠8～14日に混餌投与により、母動物の体重低下に加え、新生仔死亡の増加、同腹仔数の減少が見られ、仔の外表面異常および骨格異常の発生率が増加した（HSDB（2009））。以上より、母動物に一般毒性が発現している用量で生殖への影響が認められることから、区分2とした。
 生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い（区分2）
- 特定標的臓器毒性（単回ばく露）：本物質を含有する局所クリーム剤で治療された乾癬の患者が脳症を発症、さらに治療不応性低血糖あるいは酸・塩基平衡障害を呈し、救急血液透析により回復したとの症例報告（HSDB（2009））を初め、同様の症例が複数報告されている（HSDB（2009））。また、帯状魚鱗癬の5歳の子供に軟膏剤として使用後、発熱、呼吸亢進、呼吸性アルカローシス、昏睡状態、注視発作を起こしたと報告されている（HSDB（2009））。本物質は毒性用量で呼吸中枢を刺激し、呼吸性アルカローシスを生じ、重度の中毒では代謝性アシドーシスを起こす。さらに、標的臓器の一つに中枢神経系が記載されている（PIM 642（1998））ことから、区分1（中枢神経系）とした。
 なお、アスピリン（アセチルサリチル酸）を摂取した子供に肝性脳症が報告されている（PIM 642（1998））ように、サリチル酸塩では肝臓や肺など中枢神経以外の器官に対する影響が報告されているが、当該物質自体についてヒトでの具体的な報告はない。
 中枢神経系の障害（区分1）
- 特定標的臓器毒性（反復ばく露）：10%軟膏で4週間以上治療された尋常性魚鱗癬の7歳の子供が、ぜん鳴、嘔吐、めまいに続き、呼吸亢進によると思われる深い傾眠状態となり、入院に至った症例報告（PIM 642（1998））がある。また、クリーム剤を5日間使用していた乾癬の患者が脳症を発症し、集中治療室に入院した報告（HSDB（2009））もある。一方、急性的過剰摂取よりも慢性中毒による方が死亡率が高く、死亡は突然の心停止、または時には重度の

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

シクロヘキシルアミンサリチル酸塩〔サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム〕

改訂日:2023/07/31

脳障害に続く多発性の合併症に因る（PIM 642（1998））と述べられている。本物質はく露による標的臓器の一つとして中枢神経系の記載（（PIM 642（1998）））もあり、区分1（中枢神経系）とした。長期に又は反復暴露による中枢神経系の障害（区分1）

誤えん有害性 : 分類できない。

12. 環境影響情報

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 分類できない。
水中では、下記のシクロヘキシルアミン及びサリチル酸と同様の挙動が予想されるので、環境へ大量に放出されると、急性有害性が疑われる。

水生環境有害性 長期(慢性) : 区分に該当しない。
シクロヘキシルアミン及びサリチル酸と同様に、生分解性は良好であり、水生生物への濃縮性は低いと推測されることから、区分に該当しないと判断した。

残留性・分解性 : データなし。良分解性
生物蓄積性 : データなし。低濃縮性
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考1/2【シクロヘキシルアミン〔CAS No.108-91-8〕のデータ】

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）72時間ErC = 32.7 mg/L
（NITE初期リスク評価書，2008）

水生環境有害性 短期(急性) : 水生生物に有害（区分3）
区分に該当しない。
急速分解性があり（良分解性（2週間でのBODによる分解度：61.6%）（既存点検，1979））、生物濃縮性が低いと推測される（Log Kow=1.49（PHYSPROP Database，2009））ことから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 61.6%
生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 1.49
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

参考2/2【サリチル酸〔69-72-7〕の情報】

生態毒性

水生環境有害性 短期(急性) : 藻類（Pseudokirchneriella subcapitata）96時間EC50=65mg/L
（環境省生態影響試験，2000）

水生環境有害性 長期(慢性) : 水生生物に有害（区分3）
区分に該当しない。
魚類（メダカ）の96時間LC50=>100mg/Lであり（環境省生態影響試験，2000）、急速分解性があり（BODによる分解度：88.1%（既存点検，1976））、生物蓄積性が低いと推定される（log Kow = 2.26（PHYSPROP Database，2012））ことから、区分に該当しないとした。

残留性・分解性 : 良分解性。BOD分解度 = 88.1%
生物蓄積性 : 低濃縮性。Log Kow = 2.26
土壤中の移動性 : データなし
オゾン層への有害性 : 本品はモントリオール議定書の附属書にリストアップされていないため、分類できないとした。

13. 廃棄上の注意

残余廃棄物

: 関連法規ならびに地方自治体の基準に従って廃棄する。
都道府県知事などの許可（収集運搬業許可、処分業許可）を受けた産業廃棄物処理業者に、産業廃棄物管理票（マニフェスト）を交付して廃棄物処理を委託する。
廃棄物の処理にあたっては、処理業者等に危険性、有害性を充分告知の上処理を委託する。
必要に応じて、廃棄の前に可能な限り無害化、安定化及び中和等の処理を行って危険有害性のレベルを低い状態にする。
本製品を含む廃液及び洗浄排水を直接河川等に排出したり、そのまま埋め立てたり投棄することは避ける。
（参考）(1) 燃焼法
可燃性の溶剤等と共に噴霧するか、又はケイソウ土、木粉（おが屑）

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

シクロヘキシルアミンサリチル酸塩 (サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム)

改訂日: 2023/07/31

等に吸収させて、アフターバーナー及びスクラバー付き焼却炉の火室で焼却する。

(2) 活性汚泥法

汚染容器及び包装 : 生分解性があるので、活性汚泥処理が可能である。内容物により汚染された容器及び包装材は、関連法規の基準に従って適切に処分する。空容器を廃棄する場合は、内容物を除去した後、産業廃棄物処理業者に処理を委託する。

14. 輸送上の注意

国内規制 (適用法令)

陸上規制 : 特段の規制なし (非危険物)
 海上規制 : 特段の規制なし (非危険物)
 航空規制 : 特段の規制なし (非危険物)
 国連番号 : 非該当
 国連分類 : 非該当
 品名 : 非該当
 海洋汚染物質 : 非該当
 MARPOL73/78付属書II及びIBCコードによるばら積み輸送の有害液体物質の汚染分類 : 非該当
 特別の安全対策 : 輸送に際しては、直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れのないように積み込み、荷崩れの防止を確実に行う。食品や飼料と一緒に輸送してはならない。重量物を上積みしない。

15. 適用法令

労働安全衛生法 : 非該当。
 なお、令和6年4月1日、令和7年4月1日及び令和8年4月1日施行の表示・通知対象物の追加物質にも該当しない。
 化審法 : 本品はシクロヘキシルアミンの付加塩のため、旧第2種監視化学物質 No.1083「シクロヘキシルアミン」(官報公示日: 2011/04/01)
 毒物及び劇物取締法 : 非該当
 消防法 : 非該当
 化学物質排出管理促進法 (PRTR法) : 非該当 [2023年 (R5年) 4月1日改正にも非該当]
 船舶安全法 : 非該当
 航空法 : 非該当
 輸出入貿易管理令 : キャッチオール規制 (別表第1の16項)
 HSコード: 2921.30
 第29類 有機化学品
 ・輸出統計番号 (2023年4月版): 2921.30-000
 「アミン官能化合物
 - 飽和脂環式モノアミン、不飽和脂環式モノアミン、シクロテルペンモノアミン、飽和脂環式ポリアミン、不飽和脂環式ポリアミン及びシクロテルペンポリアミン並びにこれらの誘導体並びにこれらの塩」
 ・輸入統計番号 (2023年4月1日版): 2921.30-000
 「アミン官能化合物
 - 飽和脂環式モノアミン、不飽和脂環式モノアミン、シクロテルペンモノアミン、飽和脂環式ポリアミン、不飽和脂環式ポリアミン及びシクロテルペンポリアミン並びにこれらの誘導体並びにこれらの塩」

16. その他の情報

(注) 本品を試験研究用以外には使用しないで下さい。

参考文献 :
 化学物質管理促進法PRTR・MSDS対象物質全データ 化学工業日報社
 労働安全衛生法MSDS対象物質全データ 化学工業日報社(2007)
 化学物質の危険・有害便覧 中央労働災害防止協会編
 化学大辞典 共同出版
 安衛法化学物質 化学工業日報社
 産業中毒便覧(増補版) 医歯薬出版
 化学物質安全性データブック オーム社
 公害と毒・危険物(総論編、無機編、有機編) 三共出版
 化学物質の危険・有害性便覧 労働省安全衛生部監修
 Registry of Toxic Effects of Chemical Substances NIOSH CD-ROM
 GHS分類結果データベース nite (独立行政法人 製品評価技術基盤機構) HP
 GHSモデルMSDS情報 中央労働災害防止協会 安全衛生情報センター HP

アミン塩のお問合せ、ご相談、ご注文をお待ちしています。

シクロヘキシルアミンサリチル酸塩（サリチル酸シクロヘキシルアンモニウム）

改訂日：2023/07/31

このデータは作成の時点における知見によるものですが、必ずしも十分ではありませんし、何ら保証をなすものではありませんので、取扱いには十分注意して下さい。なお、この安全データシート(SDS)はJIS Z 7253:2019に準じ作成しています。